

◆令和4年(2022年)度 短期行動計画 進捗状況◆

運営方針①	熊本の暮らしを支える	取組の方向性	1 全県域を対象としたサービスの提供	(1) 市町村立図書館等との連携 (2) 市町村立図書館等への支援		
			2 生活や仕事に役立つサービスの提供	(1) 県民や地域の課題解決への支援 (2) 関係機関等との連携		
令和4年(2022年)度の取組						
重点取組事項	年度当初の計画			年度末の総括		
	具体的事業と実践内容	【目標】	実施時期(予定)	取組の実施状況及び成果と課題	次年度への志向等	
① 全県域への資料の提供	○ インターネット予約貸出サービスの推進及び貸出文庫の利用促進 【1】インターネット予約貸出サービスの拡大と利用増進 連携協力館との連絡を確実にしつつ利用増進に向け周知を行うとともに、遠隔地貸出による需要を掘り下げ選書へ反映させる。また、未連携館(27館)の課題を把握・共有し協議を行いサービス対象館の拡大を模索する。【対象館48箇所】 【2】配本協力の計画的運用と貸出文庫の利用促進 配本協力の計画的な運用を行い、資料の不足している市町村等への支援を進める。また、一括貸出・子ども文庫の利用促進のため市町村教委へ積極的な周知を行っていく。【市町村教委(小中学校)への周知、訪問・研修等での周知】			年度 通年	【1】インターネット予約貸出サービスの拡大と利用増進 (1) インターネット予約貸出サービス連携館増加の取り組みを実施 インターネット予約貸出は、水俣市、阿蘇市、上天草市、山鹿市を除く県内市町村(熊本市22館、熊本市外37館)と連携することができた。山鹿市はR5年度より連携の見込み、他3自治体とは継続して協議を行う。 (2) インターネット予約貸出の利用増進への取り組みを実施 相互貸借の利用者に対してチラシを用いてインターネット予約貸出サービスの周知を図った。また、連携館における周知も継続して行っている。今後は、チラシに加え、Twitterを用いた周知を行っていく。 【2】配本協力の計画的運用と貸出文庫の利用促進 (1)配本協力事業等の計画的運用と利用促進の取り組みを実施 配本協力は、継続した貸出により、計画的な運用を行っている。一括貸出や子ども文庫も含め、巡回訪問や会議等の際に内容説明を行い、利用を促すことにより、新規に3団体(子ども文庫1、配本1、一括貸出1)が借り受けを開始した。	・インターネット予約貸出について県域の全図書館が窓口となるよう引き続き協議を行う。 ・インターネット予約貸出の周知を進め、貸出冊数の増加を図る。 ・配本協力について利用団体との連携を密にし、計画的な運用を継続していくとともに、一括貸出や子ども文庫の周知を進め利用促進を図る。
	○ 市町村立図書館等との情報の共有促進、連携強化 【1】市町村立図書館等への巡回訪問研修の充実 市町村立図書館等の要望に応じた巡回訪問研修、連絡会を実施【年3回】 【2】県立図書館内研修への参加拡充 当館の館内研修において、市町村立図書館等職員へ公開できる研修内容について参加を呼びかけ研修機会を増やせるよう取り組む。【年2回】 【3】読書バリアフリーサービスの利用支援についての研修 読書バリアフリーサービス利用者へ向けた支援の在り方について当館での取り組みを基に研修を実施する。【年2回】			7月、10月、2月 随時 年度	【1】市町村立図書館等への巡回訪問研修の充実 (1)巡回訪問研修を3回実施 市町村立図書館関係職員向けのアンケート結果を踏まえ要望のあった研修を3回実施した。(人吉地区7月、下益城地区9月、阿蘇地区1月(オンライン)) 【2】県立図書館内研修への参加拡充 (1)館内研修の公開と当館職員を講師とした研修を2回実施 館内研修を公開し、市町村職員を迎えレファレンス研修を国立国会図書館の支援により開催した。また、当館職員が講師として、市町村立学校司書を対象に研修会を開催した。 【3】読書バリアフリーサービスの利用支援についての研修 (1) 読書バリアフリーの研修を7回実施 ・学校司書実践研修会：読書バリアフリー総論及び当館の取り組み ・図書館関係職員等全体研修会：公共図書館における読書バリアフリー ・巡回訪問研修(7.9.1月、3回)：読書バリアフリー総論及び当館の取り組み ・地区別研修(2月、2回)：先進地の取り組み、読書バリアフリー総論、熊本県読書バリアフリー推進計画	・巡回訪問研修等の市町村関係職員向けの研修のあり方については、参加者のニーズにあった企画を行うとともに、オンラインの活用などで参加しやすい方法を検討する。 ・国立国会図書館講師派遣型研修等を活用した館内研修の実施を検討し、共同参加型研修の増加に取り組む。 ・読書バリアフリーについては、県の推進計画の周知を進めるとともに、公共図書館における読書バリアフリーの在り方を市町村立図書館や関係機関とともに検討を進め実効性を高める。
③ 資料や各種サービス等の周知と利用の拡大	○ サービスの情報発信と利用拡大 【1】図書館サービスについての周知と利用拡大 図書館の機能やサービス、データベースの紹介等に対しSNSを利用した広報を積極的に行う。また、読書バリアフリーについて県の計画に基づき県全域への周知を図っていく。【ツイッター更新頻度 月2回→月14回】 【2】読書バリアフリーサービスの充実 熊本県読書バリアフリー推進計画に基づき、読書に困難を感じている方々に向けたサービスの充実を図る。【実施】			通年 年度	【1】図書館サービスについての周知と利用拡大 (1)図書館の各種サービス及び資料等の周知による利用拡大に向けたツイートを平均40回/月実施。 主な発信内容 ・図書館機能紹介及び利用拡大 ・読書バリアフリー ・資料展示やイベント (2)読書バリアフリーについて県全域へ周知を実施 各種会議及び研修会において読書バリアフリーへの取組及び読書バリアフリー推進計画の周知を行った。 【2】読書バリアフリーサービスの充実 (1) 利用者に向けた取り組みの実施 読書バリアフリーサービスの拡充(iPad、パソコン、よむべえ)及び大活字本の収集や読書バリアフリー別置コーナーの新設とポスター掲示、チラシ配布、ホームページの更新を行った。 (2)職員研修の実施 熊本県読書バリアフリー推進計画を含めた概念周知及び実技研修を行った。	・図書館のサービスや機能、資料などについて、SNSを利用した周知を積極的に行い、発信の頻度を上げることが出来た。引き続き次年度も取り組む。 ・読書バリアフリーについては、職員向け研修を継続し、サービスの更なる基盤強化に取り組む。

◇中期行動計画(第1次)における成果指標の目標達成状況◇

成果指標	計画時の現状	2023年度の目標値	2022年度の目標値	2022年度の実績	達成率	評価
総合的な満足度	73%	80%	80%	70%	87.5%	A
相互貸借の貸出冊数	1,379冊	1,500冊	1485冊	1,062冊	71.5%	B
相互貸借の市町村カバー率	44.4%	60%	57%	42.2%	74.0%	B
団体貸出の利用件数・貸出冊数	115件 27,633冊	130件 30,000冊	128件 29,289冊	74件 18,865冊	57.8% 64.4%	C B
研修会の実施回数・参加者数	8回 450人	16回 800人	14回 732人	14回 396人	100.0% 54.1%	S C

☆評価について☆

評価	評価基準
S	達成率100%以上
A	達成率80%~99%
B	達成率60%~79%
C	達成率60%未満

◆令和4年(2022年)度 短期行動計画 進捗状況◆

運営方針 ²	熊本の学びを支える	取組の方向性	1 熊本で学ぶ人に役立つサービスの充実	(1) 「調べる図書館」としての機能の強化 (2) 学びの場や学びを共有する機会の提供
			2 熊本を学ぶ人に役立つサービスの充実	(1) 熊本に関する資料や情報の充実 (2) 熊本に関する資料や情報の提供と発信

令和4年(2022年)度の取組

重点取組事項	年度当初の計画		年度末の総括		
	具体的事業と実践内容	【目標】	実施時期(予定)	取組の実施状況及び成果と課題	次年度への志向等
① 調べる活動の支援	○ 県立図書館の機能や資料を周知することによる支援 【1】データベースの利用促進のための周知 データベースの利用方法及び内容について、資料を作成し配布するとともに SNS 等での発信を行う。併せて館内表示も行いデータベースの利用促進につなげる。【実施】 【2】県立図書館の資料を紹介する取り組み ビジネスに関する図書、雑誌、DB、企業経営相談会等について、網羅した案内資料の作成を行い配布や SNS 等での発信を行う。【実施】	【目標】	通年	【1】データベースの利用促進のための周知 (1) データベースの利用促進の取り組み 閲覧席や学習スペースのデスクマットに提示している資料の全面的な改訂を行った。データベースの利用は前年度と比較すると2倍程度に増加した。 【2】県立図書館の資料を紹介する取り組み (1) 調べる資料及び活動の紹介を実施 ビジネス支援サービスを網羅する案内資料を作成し配布するとともに SNS での発信も行った。他に、所蔵資料を紹介する SNS 発信(15回)、企業経営相談会 SNS 発信(26回)を行った。	・データベースの活用については、周知方法の検討を継続し、利用促進につなげる。 ・ビジネス用資料の選書について、企業経営相談に携わる、中小企業診断士に協力を依頼する。
			年度		
② レファレンスの充実	○ レファレンスの効果を上げる取組 【1】レファレンスを意識した活動の充実 レファレンスの効果を上げるため、レファレンスに関連する館内掲示物の見直しを行うとともにレファレンスサービス紹介やレファレンス事例を基にした配付資料を作成する。また、効果的な書架の分類見出しを検討し作成する。【実施】 【2】レファレンス事例の紹介 レファレンス共同DBに公開事例を上げ、HPやSNSでの紹介を行う。【100件以上】	【目標】	通年	【1】レファレンスを意識した活動の充実 (1) レファレンスの増加に向けた取り組み 気軽にレファレンスが行える環境醸成のために、レファレンス事例を紹介するチラシの作成および配付を4回実施し、事例ごとの関連図書の展示も各階で行った。また、レファレンスの事例を SNS で発信した。その結果、レファレンスの件数は前年度と比較すると、1.2倍程度に増加した。 (2) ビジネス関係へのレファレンスに対応する取り組み 利用者がより調べやすい書架の在り方を検討し、ビジネスコーナーの配架順を見直し、分類毎の見出しの追加を行った。 【2】レファレンス事例の紹介 (1) レファレンス共同DBに公開事例127件を掲載 レファレンス対応全体の内、技術的見地から高度な内容を精査し掲載した。	・レファレンスへの取組及び能力の向上は調べる活動支援の基幹部分となるため、日常的な職場内研修の在り方を検討し進める。 ・職員全体の能力向上による底上げのため、先進的な取組や国立国会図書館の専門部署から学ぶ機会を設ける。
			通年		
③ インターネット等を活用した情報の提供	○ ホームページを活用した市町村支援の充実 【1】市町村図書館専用ページの充実 県立図書館に寄せられる各種研修会案内や実施された研修成果の報告。また、県立図書館の取組や図書館全体にかかる情報の発信に努める。【実施】 ○ インターネット等を活用した情報発信 【1】図書館サービスについての周知と利用拡大 図書館の機能やサービス、データベースの紹介等に対し SNS を利用した広報を積極的に行う。また、読書バリアフリーについて県の計画に基づき県全域への周知を図っていく。【再掲】【ツイッター更新頻度 月2回→月14回】	【目標】	5月・10月・2月	【1】レファレンススキル向上のための研修実施 (1) レファレンスに関する全職員の資質向上のために研修を実施 ビジネスに関するレファレンスに対応するため、インターネットの情報を利用したレファレンス対応研修を行った。 (2) 担当による日常的な取組の継続 レファレンスを担当する職員を中心に相互の情報交換を行い事例の共有を随時実施した。	・当日、現地で研修に参加できない職員も、後日受講できる体制を作るため、研修の動画や資料等の掲載を進めていく。それにより、市町村関係職員の専用ページ利用の促進につなげる。 ・SNS、HP などを利用した情報発信は、継続して取り組むことが重要であると認識し、次年度も継続して取り組む。
			通年		
④ 熊本に関する資料や情報の充実	○ 熊本に関する資料や情報の収集や提供の充実 【1】郷土資料・新聞記事等の紹介 SNSを活用し、郷土資料のコレクションや郷土に関する内容の新聞切り抜きなどテーマを決めて連載で紹介する。【4テーマ実施/年間】	【目標】	通年	(1) 郷土資料・新聞記事等の紹介を SNS により発信【5テーマ・30件】 「オンラインデータベース豆情報」「郷土資料ミニ展示」「雑誌の特集記事の紹介」「当館資料が展示されています!」「図書館110年」の5つのテーマを設定し情報を発信した。	・郷土資料のコレクション等について、引き続き SNS 等を利用した発信を行う。
			通年		

◇中期行動計画(第1次)における成果指標の目標達成状況◇

成果A指標	計画時の現状	2023年度の目標値	2022年度の目標値	2022年度の実績	達成率	評価
レファレンスの件数	6,992件	18,000件	16,900件	12,426件	73.5%	B
レファレンスの満足度	65%	80%	80%	83%	103.8%	S
ホームページのアクセス数	156,950件	250,000件	250,000件	345,276件	138.1%	S
当館利用団体等による発表会の実施回数	0回	10回	8回	7回	87.5%	A

☆評価について☆

評価	評価基準
S	達成率100%以上
A	達成率80%~99%)
B	達成率60%~79%)
C	達成率60%未満

◆令和4年(2022年)度 短期行動計画 進捗状況◆

運営方針 ³	熊本の文化を発信する	取組の方向性	1 熊本の文化を守る取組の充実	(1) 館内資料の保存 (2) 館外資料の保存	
			2 熊本の文化を発信する取組の充実	(1) くまもと文学・歴史館との連携による情報発信 (2) 多様な方法を駆使した情報の発信	
令和4年(2022年)度の取組					
重点取組事項	年度当初の計画			年度末の総括	
	具体的事業と実践内容	【目標】	実施時期(予定)	取組の実施状況及び成果と課題	次年度への志向等
①貴重資料等の修理・修復の推進	○ 館内資料保存のための環境維持改善活動 【1】 <u>県立図書館職員による資料保存管理の徹底</u> 害虫トラップ調査の実施や、館内の清掃管理の徹底により、資料保存のための環境づくりに取り組む。また、活動の普及にも取り組む。 【実施】		通年	【1】 <u>県立図書館職員による資料保存管理の徹底</u> (1) <u>害虫トラップ調査の実施と改善の取り組みを実施</u> 害虫駆除・減少のため、害虫の多い場所を特定し、サーキュレーターを利用した換気の強化とともに、重点的な清掃等の対応を行った。 (2) <u>資料保存活動の普及への取り組みを実施</u> 資料保存の重要性と当館の取り組みを、インターンシップにおいて研修を行った。	・継続して館内の資料保存環境の課題確認・改善に努めるとともに、職員の意識向上を図る。県内市町村図書館や学校図書館への情報発信や資料保存についての相談にも対応する。 ・維持管理行為に係る指導研修は、継続して実施する。また、館内職員のスキルアップ、資料保存に関する専門性の向上を課題意識として取り組む。要望があれば、市町村図書館や市町村の教育委員会等の担当者への研修の機会を提供する。 ・貴重資料(古文書)を県民に広く理解してもらうために、インターンシップ等の職場体験の学生に資料の紹介や保存環境の説明等を実施する。
	○ 古文書の取り扱いに関する知識・技術の習得 【1】 <u>資料保存に留意した取り扱い方法、利用者への資料の提供の判断基準を学ぶ</u> 経年劣化した古文書や昭和初期の貴重な資料の取り扱いについて館内研修で知識と技術を習得する。 【館内研修の実施】		年度	【1】 <u>資料保存に留意した取り扱い方法、利用者への資料の提供の判断基準を学ぶ</u> (1) 古文書等の取り扱いに関する全職員の資質向上のために研修を実施 経年劣化した古文書等の取り扱いについて、当館学芸員を講師として、基本的な取扱い方法と、利用者へ提供するシチュエーションを想定した研修を実施した。	
	○ 貴重資料等の保存管理に関する知識・技能の向上と人材の育成・確保 【1】 <u>「図書館資料保存のための維持管理行為に係る研修指導業務」の実施</u> 【館内研修8回】 【2】 <u>県立図書館職員による貴重資料等のクリーニング・補修の実施</u> 県立図書館職員で対応できる修理・修復に関しては積極的に進めていく。要望があれば県内市町村図書館へも情報提供を行う。 【古文書12点】		年度 通年	【1】 <u>「図書館資料保存のための維持管理行為に係る研修指導業務」の実施</u> (1) <u>資料の維持管理について、外部講師による継続した研修(8回実施)</u> <u>資料保存、修理の技術向上のために外部講師による研修を実施した。</u> 【2】 <u>県立図書館職員による貴重資料等のクリーニング・補修の実施</u> (1) <u>古文書等の修理(12点)</u> <u>研修により向上した技術を活用し、経年劣化した古文書や地図の修理も積極的に実施した。</u>	
②貴重資料等のデジタル化と提供	○ 文化的に価値の高い貴重資料等の保存と提供の推進 【1】 <u>貴重資料等のデジタル化</u> 【100点(5000枚以上)】 【2】 <u>デジタル化資料のホームページへの掲載</u> 【80点(4000枚以上)】 【3】 <u>貴重資料等の複本の作製</u> 【40点】		通年 年度	【1】 <u>貴重資料等のデジタル化</u> (1) <u>貴重資料等のデジタル化点数(119点(6,535枚))</u> 【2】 <u>デジタル化資料のホームページへの掲載</u> (1) デジタル化資料のホームページ掲載数(95点(表紙、目次のみ)) 【3】 <u>貴重資料等の複本の作製</u> (1) <u>貴重資料等の副本作成(30点)</u>	・貴重資料のデジタル化については、破損や劣化の状況確認を行いながら計画的に進める。 ・ホームページへの掲載にあたっては、資料の選択、掲載方法、周知の方法も含めて効果的な実施を検討し推進する。なお、個人文庫のデジタル化資料は、著作権の確認が容易ではないため、表紙・目次の掲載にとどめる。
	○ 資料のデジタル化や古文書整理等を行うための人材の育成・確保 【1】 <u>資料のデジタル化等に関する研修等への参加</u> 各課、各班のデジタル化やホームページ担当者は最新技術や先進事例を学び、当館のデジタルアーカイブ構築を考えるために、オンライン研修などの機会を活用し、積極的に研修やセミナーに参加する。 【研修会参加2回/年】		通年	【1】 <u>資料のデジタル化等に関する研修等への参加</u> (1) デジタル化等に関する研修参加(2回(7名)) デジタル化の最新技術取得と各地の状況把握のために研修会へ参加するとともに、先進的な取り組みを確認した。 ・全国図書館大会群馬大会資料保存分科会参加 ・沖縄地区図書館地区別研修参加と沖縄県立図書館を視察	
③くまもと文学・歴史館との連携	○ くまもと文学・歴史館との連携による情報の発信 【1】 <u>くまもと文学・歴史館における情報発信</u> 文学・歴史館における展示会(常設展、企画展3回、収蔵品展3回)及びマンガコーナー、図書館ギャラリーの活用等により熊本の文化の発信を行う。 【実施】 【2】 <u>くまもと文学・歴史館YouTubeチャンネルによる動画での情報発信</u> 【実施】		通年 通年	【1】 <u>くまもと文学・歴史館における情報発信</u> (1) <u>企画展、収蔵品展の開催(企画展3回)(収蔵品展3回)</u> ・企画展「湧水と生きる一江津湖の歴史と文学」 ・企画展「松本唯一と松本文庫」 ・企画展「煩悶と運命—朔太郎と熊本のゆかり—」 ・収蔵品展 アーカイブズに見るくまもと N019, N020, N021 ・他にトピック展示として「明治天皇熊本巡行150年」を開催。 【2】 <u>くまもと文学・歴史館 YouTube チャンネルによる動画での情報発信</u> (1) <u>YouTube チャンネル関連で、くまもと文学・歴史館長の連続講演会、企画展の紹介及び関連講演会の動画配信を行った。</u>	・熊本ゆかりの貴重な文学、歴史資料の展示を開催し、企画展3回、収蔵品展2回及びトピック展示を随時行う。 ・YouTubeチャンネルを利用した講演会等の動画配信を継続して行う。

◇中期行動計画(第1次)における成果指標の目標達成状況◇

成果指標	計画時の現状	2023年度の目標値	2022年度の目標値	2022年度の実績	達成率	評価
貴重資料等の修復点数	4点	30点	30点	12点/年	40.0%	C
貴重資料等のデジタル化点数	5,897点	7,000点	6,778点	6,535点	96.4%	A
郷土資料の利用提供数	10,252点	11,300点	11,300点	6,965点	61.6%	B
文学・歴史館入館の当館利用への影響度	37%	50%	47%	43%	91.5%	A

☆評価について☆

評価	評価基準
S	達成率100%以上
A	達成率80%~99%
B	達成率60%~79%
C	達成率60%未満

◆令和4年(2022年)度 短期行動計画 進捗状況◆

運営方針④	熊本の未来を創造する	取組の方向性	1 熊本の次世代を担う子どもの育成に向けた取組の充実	(1) 子ども図書室における取組 (2) 学校や家庭、地域との連携
			2 図書館の充実と発展に寄与するための取組の充実	(1) 図書館を支える人材の育成 (2) 図書館振興に関する情報の発信

令和4年(2022年)度の取組

重点取組事項	年度当初の計画		年度末の総括		
	具体的事業と実践内容	【目標】	実施時期(予定)	取組の実施状況及び成果と課題	次年度への志向等
①子ども図書室の取組の充実	○ 魅力ある子ども図書室の創造 【1】魅力ある書架づくり 子どもが借りたくなる書架、使いやすいディスプレイや展示コーナーの作成とともに、幼年文学コーナーの充実を図り、利用者の満足度が高くなる環境づくりを行う。【実施】 【2】学習支援と広報活動 絵本展の紹介やパスファインダーの更新と紹介を行い、学校図書館や市町村図書館への資料提供と調べ学習向けの支援及びレファレンス支援を行う。【更新8点】		通年 通年	【1】魅力ある書架づくり (1)幼年文学コーナーの増設を実施 絵本から児童書への橋渡しのため、幼年文学コーナーを2倍に増設し強化するとともに、資料紹介のポップも倍増させて常に新しい物語を紹介した。 【2】学習支援と広報活動 (1)絵本展の取り組みを継続 読書週間にあわせて、絵本展「すてきな絵本のおくりもの」を実施した。 (2)パスファインダーの新規作成と更新(8点) くまもと文学・歴史館の俳句の子ども向けワークショップ用に新規に作成した。団体見学やレファレンスへの対応でも積極的に活用した。	・書架づくりと学習支援、広報活動は継続して行う。 ・ビッグブックなどの特別資料や雑誌の提供の仕方を見直す。 ・書架の見出しをコーナーごとに見直し、利用しやすい棚づくりを行う。 ・パスファインダーは、新たなテーマを設定し追加作成する。 ・おはなし会の感染症対策継続については今後の状況を注視しつつ、話し手、参加者双方が安心して臨めるように検討する。 ・団体見学は申込時から担当者同士の連絡を密にし、団体側の要望も取り入れながら、効率的な見学のあり方を模索する。
	○ 参加体験型利用の促進 【1】定例おはなし会の再開 【実施】 【2】子ども図書室の見学・団体利用・インターンシップ・実習への対応 保育園・幼稚園や小中高・大学生等の図書館見学・団体利用・実習を受け入れ、利用案内や子ども図書室の役割について啓発を行う。【実施】		通年 随時	【1】定例おはなし会の再開 (1)定例おはなし会再開と特別おはなし会実施 6月から定例おはなし会を再開し、1月までに30回実施。また、夏休みのこわ〜いおはなし会や絵本展の特別おはなし会も実施した。 【2】子ども図書室の見学・団体利用・インターンシップ・実習への対応 (1)図書館実習等の受け入れを継続 (実習1件、インターンシップ4件、職場体験1件、見学5件) 図書館業務全般(くまもと文学・歴史館含む)について、実習指導等を行った。	
	○ 市町村図書館や利用者へ向けた選書支援・読書支援 【1】家庭への選書・読書支援 インターネット等を利用して、子どもの発達段階に対応した絵本等のリストを提示する。子ども室の展示情報や展示リストを参照できるようにし、テーマ別の選書情報を提供する。【情報提供 展示リスト作成(10回)】 【2】市町村図書館への読書支援 子供の読書活動推進のために、指導者を養成する講座を開催 【実施】		通年 年度	【1】家庭への選書・読書支援 (1)展示情報や展示リストの情報発信(14回) HPやFacebook、Twitterを使って子ども室のイベントや展示情報を提供した。他に、子ども未来課のLINE「聞きなっせAI くまもとの子育て」や子育て雑誌、地域の情報誌へも情報提供した。 【2】市町村図書館への読書支援 (2)肥後っ子いきいき読書環境づくり講座開催 子どもの読書活動の推進のために、市町村及び学校の図書館関係職員にむけ「子どもの育ちとわらべうた」をテーマに講座を開催した。	
②学校図書館への支援の充実	○ 学校図書館職員への支援 【1】学校図書館司書を対象とした研修会の実施 学校図書館司書を対象に運営に必要な基礎的知識を習得する研修会を実施する。【実施】		5月下旬	【1】学校図書館司書を対象とした研修会の実施 (1)学校司書実践研修の開催 「読書バリアフリーについて」や「児童生徒の図書館利用促進」、「レファレンス対応」について研修を実施した。同時に県立図書館の役割や各種のサービスについても周知した。	・学校図書館司書向けの研修は、教育センターと連携し、特に研修機会の少ない市町村の学校図書館司書の研修機会として経験年数を制限せず行う。 ・配本事業による学校図書館支援では、継続して利用のある団体と計画的運用ができるよう取り組むとともに、一括貸出・子ども文庫の利用を奨励する。
	○ 資料提供等による支援の充実 【1】一括貸出・配本協力の利用促進 チラシ・HP・メール等による利用案内を周知する。配本協力においては、年間を通し計画的に運用を心がけ執行状況から可能な限り新規利用を促す。一括貸出においては、市町村教育委員会を通じて小中学校の更なる利用を促す。【案内・実施】		通年	【1】一括貸出・配本協力の利用促進 (1)配本協力等の利用促進のための取り組みを実施 HPや各会議等での事業周知・利用案内を継続して行った。結果、3団体(子ども文庫1、配本1、一括貸出1)が新規に借受を開始した。配本協力については継続的な利用を促し、計画的に運用した。	
③図書館職員等の研修の充実	○ 図書館関係職員等の研修機会の充実 【1】県立図書館が主催または共催する研修会の実施(一部再掲) 【8回】 ※館内研修の市町村立等職員の参加も含む ・上記の主催・共催研修会の動画配信による受講の奨励 【2回】 【2】肥後っ子いきいき読書環境づくり事業に基づく指導者養成講座の開催(再掲) 【1回】 【3】市町村立図書館等への巡回訪問研修の充実(再掲) 【年3回の実施】		年度 7月、10月、2月	【1】県立図書館が主催または共催する研修会の実施 【2】 【3】も含む (1)主催・共催研修会の実施(9回) 学校司書研修(5月)、全体研修(10月)、市町村職員参加館内研修(11月)、巡回訪問研修(7月、人吉地区、9月、下益城地区、1月、阿蘇地区)、肥後っ子いきいき読書環境づくり講座(2月)、地区別研修(2月、県北・県南地区)	・R5年度肥後っ子いきいき読書環境づくり事業講座は学校図書館職員対象で実施予定。 ・県域の図書館関係職員に向けた研修会の実施については、計画的な対応を継続して進めていきたい。巡回研修については、参加を容易にするためオンラインで開催し県域を対象に行う予定。外部研修への参加による資質向上が、更に広がるよう取り組む。 ・日本図書館協会メールマガジン等を活用し、職員に有用な研修情報を収集し、職員の研修参加を促す。
	○ 県立図書館職員の知識や技能の向上 【1】外部研修への職員の参加と情報発信 【5回】		随時	【1】外部研修への職員の参加と情報発信 (研修参加12回(うち11回はオンライン研修)、延べ73人) 著作権、児童文学講座、読書バリアフリー、デジタル化等に関する研修に参加し見識を深めた。また、市町村専用ページにより内容を発信した。	

◇中期行動計画(第1次)における成果指標の目標達成状況◇

成果指標	計画時の現状	2023年度の目標値	2022年度の目標値	2022年度の実績	達成率	評価
子ども図書室の貸出冊数	79,264冊	90,000冊	87,500冊	79,000冊	90.3%	A
おはなし会の参加者数	1,415人	1,500人	1,483人	307人	20.7%	C
子ども文庫の利用件数・貸出冊数	26件 7,813冊	35件 10,000冊	34件 9,550冊	11件 4,135冊	32.4% 43.3%	C C
研修会の実施回数・参加者数【再掲】	8回 450人	16回 800人	14回 732人	14回 396人	100.0% 54.1%	S C

☆評価について☆

評価	評価基準
S	達成率100%以上
A	達成率80%~99%
B	達成率60%~79%)
C	達成率60%未満